



発行：富士宮市教育委員会文化課
〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地
TEL：0544-22-1187 FAX：0544-22-1209
E-mail：e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

発行日：令和4年1月14日
イラスト・まんが：根上友里・文化課



まえがき

2022（令和4）年1月9日からNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放送開始となりました。主人公は北条義時です。

北条義時は、伊豆国出身の武将で、父は北条時政、姉は北条政子、義理の兄（お姉さんの夫）は源頼朝です（p.17 参照）。義時は鎌倉幕府の執権（将軍の補佐役）として政治を任せ、承久の乱（1221（承久3）年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府打倒の兵を挙げ、幕府に鎮圧された事件。）に勝ち、武士の世の基礎をつくりました。

鎌倉殿の13人とは？

鎌倉殿とは、鎌倉幕府の長のことで源頼朝がその始まりです。鎌倉殿の13人とは、頼朝に仕えた主な家臣で、源頼朝の死後にその立場を継いだ源頼家（頼朝の子）を支えた13人の主な家来を指します。ドラマでは、13人による権力の駆け引きが描かれます。その中で生き残るのが主人公の北条義時です。



時代背景

物語の始まりは、平安時代末期、平氏が大きな権力を持っていた時代にさかのぼります。このころの源頼朝は、父源義朝が1159（平治元年）年に平治の乱で平清盛に敗れたため、罪人として伊豆に流されています。それを監視していたのが平氏側の北条時政です。頼朝はやがて北条政子を妻にすることで北条氏を味方にし、力をつけていきます。

そして頼朝は、1180（治承4）年、源氏の再興をかけて北条氏らとともに伊豆で挙兵しますが、相模国（現神奈川県）での石橋山の戦いで再び平氏に敗れてしまいます。頼朝は態勢を立て直すため安房国（現千葉県）へ逃げ、短期間で味方を増やし、大軍勢となって鎌倉に入ります。そして、1185（寿永4）年の、長門国（現山口県）での壇ノ浦の戦いで平氏に勝利し、鎌倉に幕府を開きました。

富士山の麓で起こった3つの戦い

鎌倉に入った頼朝が、平氏と戦うため西へと向かう中、1180（治承4）年の8月から10月にかけて、富士山の麓で3つの戦いがありました。

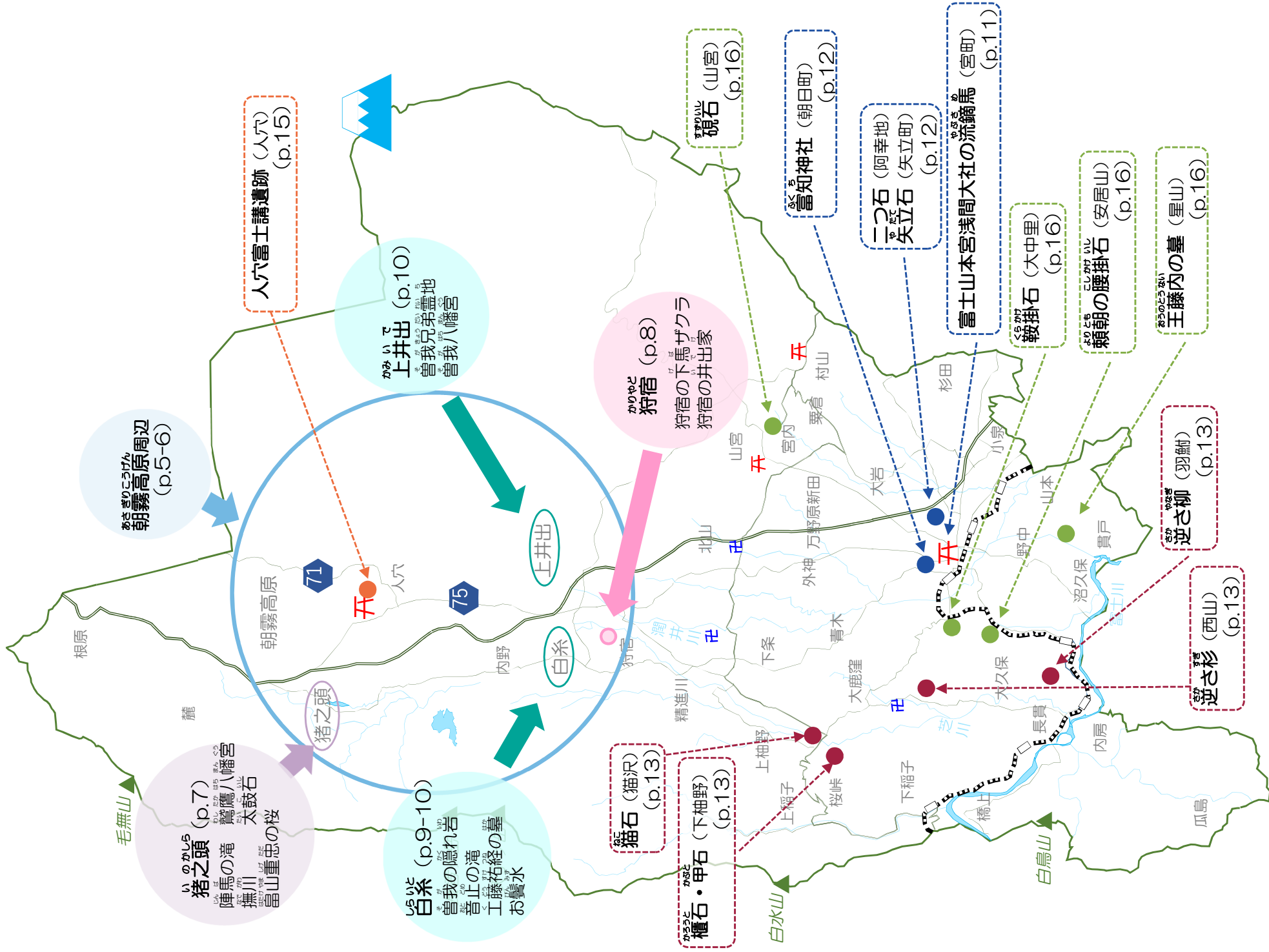
1つ目は甲斐国（現山梨県）富士山北麓での「波志田山の戦い」、2つ目は甲斐国と駿河国（現静岡県東部）の国境での「鉢田の戦い」です。2つの戦いに勝った頼朝率いる源氏は、有名な「富士川の戦い」に臨み、平氏の大將平維盛（平清盛の孫）に勝ち、勢いをつけました。

鎌倉幕府と富士宮

壇ノ浦の戦いが終わると、頼朝は平氏との戦いで活躍した武士に、荘園などの土地を管理したり税金の取り立てを行うことができる「地頭職」を与えました。富士宮では、北山の石川孫三郎、上野の南条時光が、鎌倉幕府から地頭職を与えられたと考えられています。

また、1192（建久3）年にその力を恐れていた後白河法皇が亡くなり、朝廷から征夷大將軍に任ぜられた頼朝は、翌年に戦の訓練として各地で巻狩を行います。富士宮で行われた「富士の巻狩」は特に規模が大きく、頼朝の力を世間に示す重要な意味があったと考えられています。

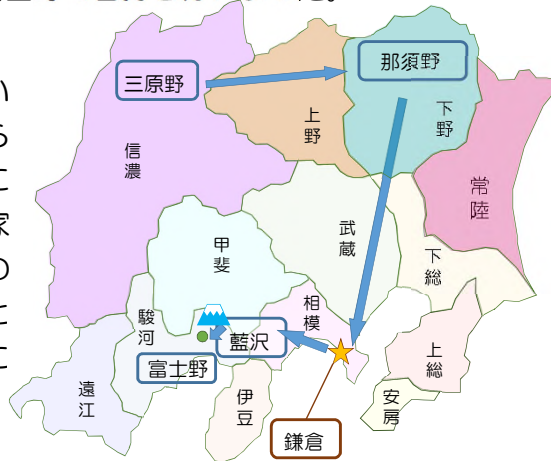
「鎌倉殿の13人」関連伝承地MAP



源頼朝、巻狩を行う

1192（建久3）年に征夷大将軍となった源頼朝は、鎌倉幕府の力を天下へ示すため、翌年 3月・4月に信濃国三原野・下野国那須野で、5月からは富士山の麓の藍沢・富士野で巻狩を行いました。

富士山の麓で行われた巻狩は、後に「富士の巻狩」と呼ばれています。富士の巻狩は5月8日から6月7日の約1ヶ月という長期にわたって行われ、大勢の頼朝の家臣が参加しました。特に富士野の巻狩は5月15日から6月7日と長期間に及び、藍沢より大規模に行われました。



鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』を見ると、富士野での巻狩の間には、弓の名手・工藤景光が山の神の化身と考えられる大鹿を矢で射かけて病気になるという不思議な事件や、「曾我兄弟の仇討ち事件」(▶p.17-20)が起こったと書かれています。

- ※三原野…現長野県・群馬県境の浅間山周辺
- ※那須野…那須野原。現栃木県北部
- ※藍沢…藍沢原。現御殿場市・裾野市周辺
- ※富士野…現在の富士山西麓の人穴を含む朝霧高原一帯から、白糸・上井出・北山付近にわたる範囲

コラム
頼朝と妻・北条政子の温度差

『吾妻鏡』には、次のようなエピソードがあります。巻狩の最中、長男・頼家が初めて鹿を射たことに喜んだ頼朝は、妻・政子に報告の使者を送りました。しかし政子は「使いをよこすほどの珍しいことでもないのに」と喜ばなかったとあります。

整列する武士

せこ 勢子

棒を持ち、犬と一緒に猪・鹿を追い立てる

巻狩の様子を、高台から見下ろす頼朝たち

いて 射手

追い立てられた獣を槍で突く

「富士の裾野巻狩之図」
(富士山かぐや姫
ミュージアム(富士市)所蔵)

いの かしら じんば たき しゅうへん でんしょう
猪之頭—陣馬の滝と周辺の伝承—



① 陣馬の滝

富士の巻狩の時、源頼朝が滝の近くに一夜の陣を張ったことから「陣馬の滝」と呼ばれるようになったと伝えられます。

② 鷲鷹八幡宮

曾我兄弟 (▶p.17-20) が死んだ時に、鷲・鷹がやってきて兄弟の大事な臓器をくわえて飛び去り、この地に葬ったと伝えられています。



③ 撫川

頼朝が矢尻で地面を撫でたところ、その場所から清水が湧き出し川になったと伝わります。



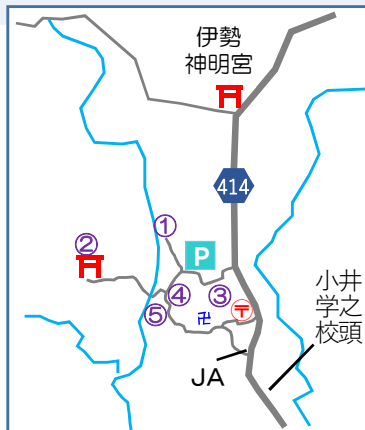
④ 太鼓石

夜、滝の下で太鼓を打つような音を聞いた頼朝が翌朝に滝つぼを探らしてみると、右のような石がでてきたと伝わります。太鼓の胴のような形から「太鼓石」と名付けられています。



⑤ 富山重忠の桜

富山重忠が巻狩の時に近くに陣を敷き、この桜を植えた、あるいはこの桜に馬をつないだと伝わります。



かり やど しゆくしゃ げ ば
狩宿—頼朝の宿舎と下馬ザクラ—

源頼朝、富士野に宿泊する

源頼朝の宿舎 (「富士野神野御旅館」) は、現在の狩宿の井出家とその周辺にあったと考えられています。近くには頼朝の家臣たちの宿舎も作られたようです。

『吾妻鏡』によれば、頼朝が到着した5月15日は、仏教の教えで生き物を殺してはならない日であったため、頼朝は家臣たちと1日中宴会をしていたとあります。



元屋敷 (現在は水田)

狩宿の下馬ザクラ

巻狩の時、頼朝が馬からおりた所とされることから「狩宿の下馬ザクラ」と呼ばれるようになったと伝えられています。その時、桜に馬をつないだとも言われており、「駒止めの桜」とも呼ばれています。

狩宿の井出家

この地域について書かれた江戸時代の本によれば、頼朝の宿舎は巻狩後、井出家の屋敷として使われました。またそのときは隣接する「元屋敷」といわれる所がありました。(現在の建物は江戸時代のもので)

しらいと かみ い で そ が きょうだい あだう じ けん
白糸・上井出ー曾我兄弟の仇討ち事件ー

富士の巻狩さなかの1193(建久4)年5月28日の深夜。曾我十郎祐成・五郎時致兄弟が、父親の仇・工藤祐経の宿舎へ押し入り、彼を討つという事件が起きました。後に言う「曾我兄弟の仇討ち事件」です。(▶p.17-20)

そ が かく いわ
曾我の隠れ岩



仇討ちの相談をする兄弟が、身を隠した場所と伝わります。



おと ども
音止の滝

芝川を水源とする落差25mの滝。世界遺産の構成資産の一つ「白糸ノ滝」の一部です。



工藤祐経の墓



富士の巻狩の時、この付近にあった工藤祐経の宿舎で、曾我兄弟が祐経を討つたと伝わります。

社の中にある石碑には「工藤左衛門尉祐経塚 文化拾三年八月日」と書かれています。

はち まん ぐら
曾我八幡宮



ぶんれい (北山) 分霊 (北山)

曾我八幡宮は1197(建久8)年、曾我兄弟の孝行心に感動した源頼朝が畠山重忠に命じ、地域の住人に兄弟を祀らせたのがはじまりと伝わります。またこの場所は仁田忠常(▶p.15)の宿舎の近くであり、兄・十郎祐成が討たれた場所とされます。

曾我八幡宮の中には、頼朝が作らせたと伝わる主祭神・応神天皇の木像と、畠山重忠が作らせたと伝わる曾我兄弟の木像があります。(写真中央)



れい ち
曾我兄弟霊地



曾我八幡宮東の高台に、近年造られた曾我兄弟の供養塔があります。供養塔のそばには、1749(寛延2)年、1780(安永9)年と刻まれた石灯籠や稲荷の石祠があります。

またこの場所以外にも、富士市久沢の曾我寺など各地に曾我兄弟の墓と言われている場所があります。



びん みず
お鬢水



白糸の滝の上にある岩穴の湧水池です。頼朝が鬢(結い上げた髪の毛の左右両側の部分)のほつれを、水に映して直した場所と言われています。

富士山本宮浅間大社の流鏝馬

流鏝馬は、走る馬に乗りながら弓矢で的を射る技術・儀式です。すでに平安時代ごろには行われており、鎌倉時代には武士が身に付けるべき技術となりました。

富士山本宮浅間大社では、現在も毎年5月に流鏝馬が行われています。この流鏝馬は、源頼朝が富士の巻狩の時に、浅間大社に奉納したのが始まりだと言われています。



現在の流鏝馬



水神社（富士市）で行われる「河原祓」
流鏝馬前に、馬と乗り手を清めるために行います。（現在、馬は出ません）

▼伝統的な流鏝馬の「行い」
（古式流鏝馬・富士宮市指定文化財）



▼小笠原流鏝馬の「本乗り」



二つ石（阿幸地）



頼朝が馬を乗るときに踏み台にした石と伝わります。

矢立石の碑（矢立町）



頼朝が矢を射立てた所から水が湧き出し、「矢立池」となると伝わります。現在は池が埋められ石碑だけが残されています。

富知神社（朝日町）



江戸時代に記された浅間神社の社伝によれば、浅間大社が山宮から現在地に遷座してくるまで、その場所には富知神社があったとあります。

『吾妻鏡』によれば、頼朝が北条義時に命じて、富知神社と思われる神社に田んぼを寄進しています。

コラム

北条義時と浅間大社

幕府の実権を握った北条義時は、1223（貞応2）年6月20日、浅間大社の「造替遷宮」の儀式を行っています。

※造替遷宮とは、神社の建物を建て替え、工事のために引っ越ししていた神様を新しい建物に移す儀式のこと。



芝川地区



猫石 (猫沢)



源頼朝が富士の巻狩を行った際、大きな山猫が現れましたが、獲物を追い立てる役の人に追われて沢に入り姿を消しました。

山猫が姿を消した辺りには、大きな猫の形をした石が残されており、それが「猫石」とであると伝わります。

櫃石・甲石 (下柚野)



「櫃石」(写真左)は、頼朝がこの大石の上に鎧を入れた箱を置いたと伝わります。田の側面には、兜を置いたと伝わる「甲石」(写真右)があります。

逆さ杉 (西山)



頼朝が昼食をここで取った時、沼に杉の小枝をさかさまに差したところ、そのまま根付いたと伝わります。

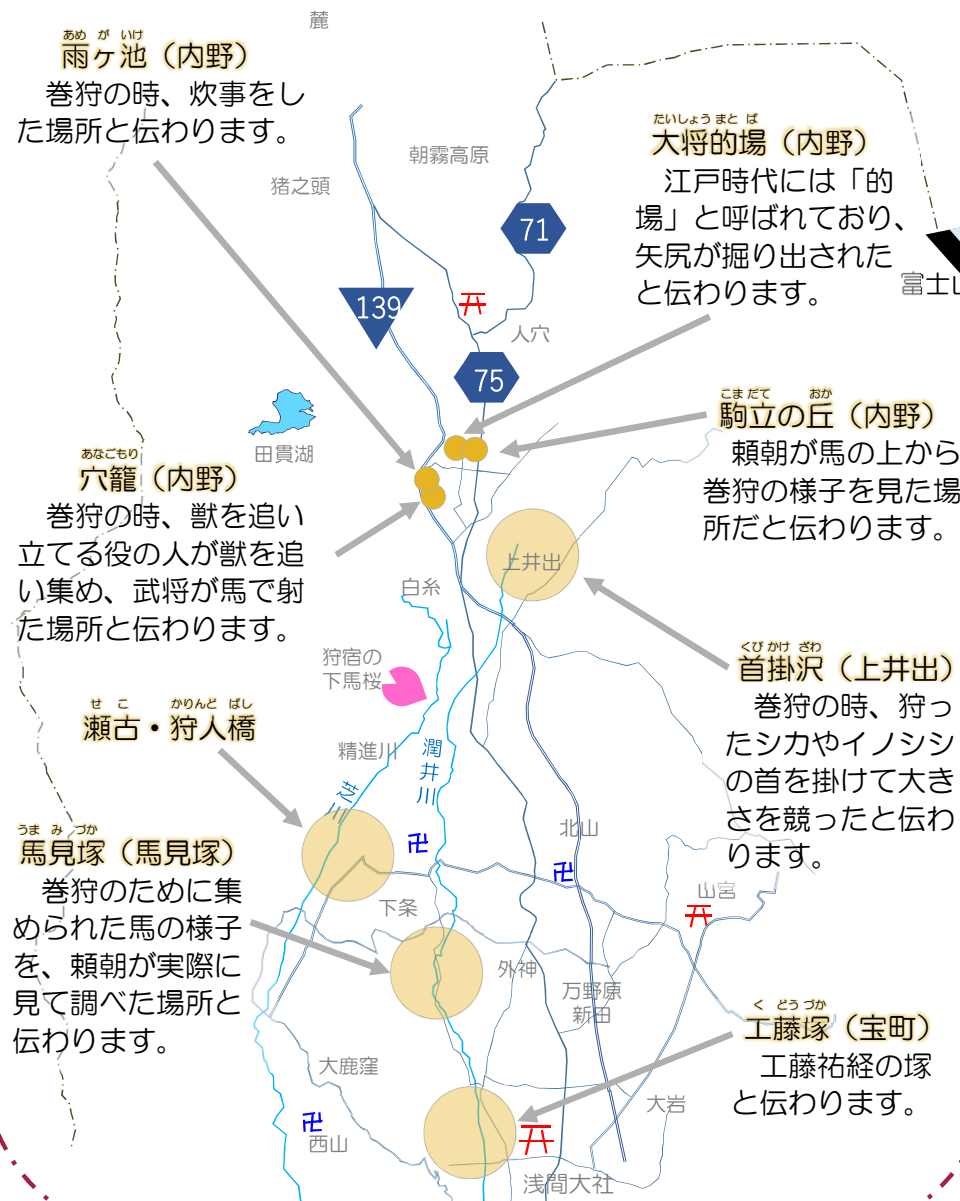
逆さ柳 (羽鮒)



頼朝が池のほとりで昼食を取った時、柳の箸をさかさまに差したところ、そのまま根付いたと伝わります。

コラム

地名などに残る富士の巻狩ゆかりの土地

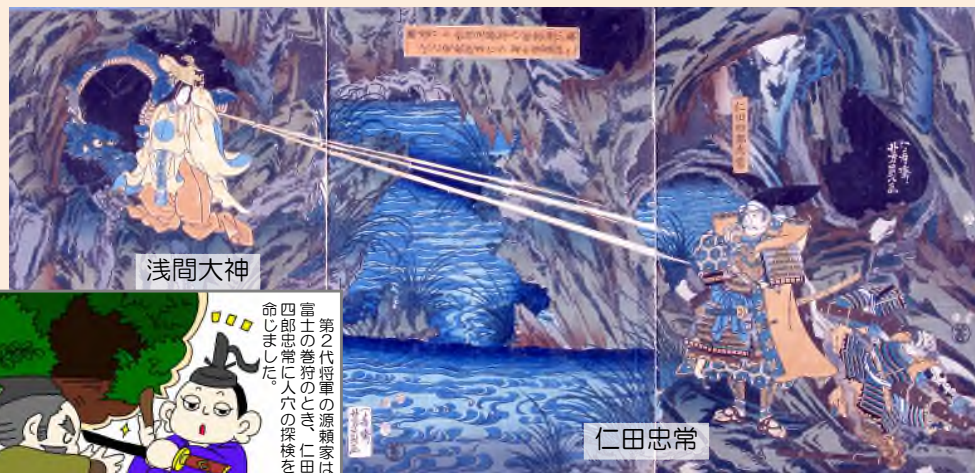




仁田忠常の人穴探検

仁田四郎忠常は平・鎌倉時代前期の伊豆の武士です。源平の合戦では源頼朝の下で活躍し、頼朝の厚い信頼を得ました。1193（建久4）年、富士の巻狩の最中に起こった曾我兄弟の仇討ち事件の時には、曾我十郎祐成を討ち取りました。

忠常はまた、頼朝の跡を継いだ頼家からも厚く信頼され、1203（建仁3）年の巻狩の時には、頼家から人穴の探検を命じられました。



「建仁三年 源 頼朝 卿 富士之御狩の時仁田四郎忠常命に依て人穴 入 図」
(富士山かくやひめミュージアム(富士市)所蔵)
※絵の中では「頼朝」とあるが正しくは「頼家」と考えられる。



◀ 人穴内部

あさまのおおかみ
奥に「浅間大神」の石碑がある ▶

碓石 (山宮)



巻狩の時、ここを通った頼朝が、碓の代わりにこの石で墨をすったと伝わります。

鞍掛石 (大中里)



富士の巻狩の時、頼朝が安居山別所に住む「別所の信定」という人物の屋敷を訪れたという伝説があります。

この石は巻狩を終え、休養のために彼の館へ向かった頼朝が、途中ここで休んだ時に馬の鞍を掛けた石だと伝わります。

頼朝の腰掛石 (安居山)



頼朝が「別所の信定」に流鏝馬を行うように命じ、その様子を頼朝がこの石に腰掛けて見たと伝わります。

王藤内の墓 (星山)

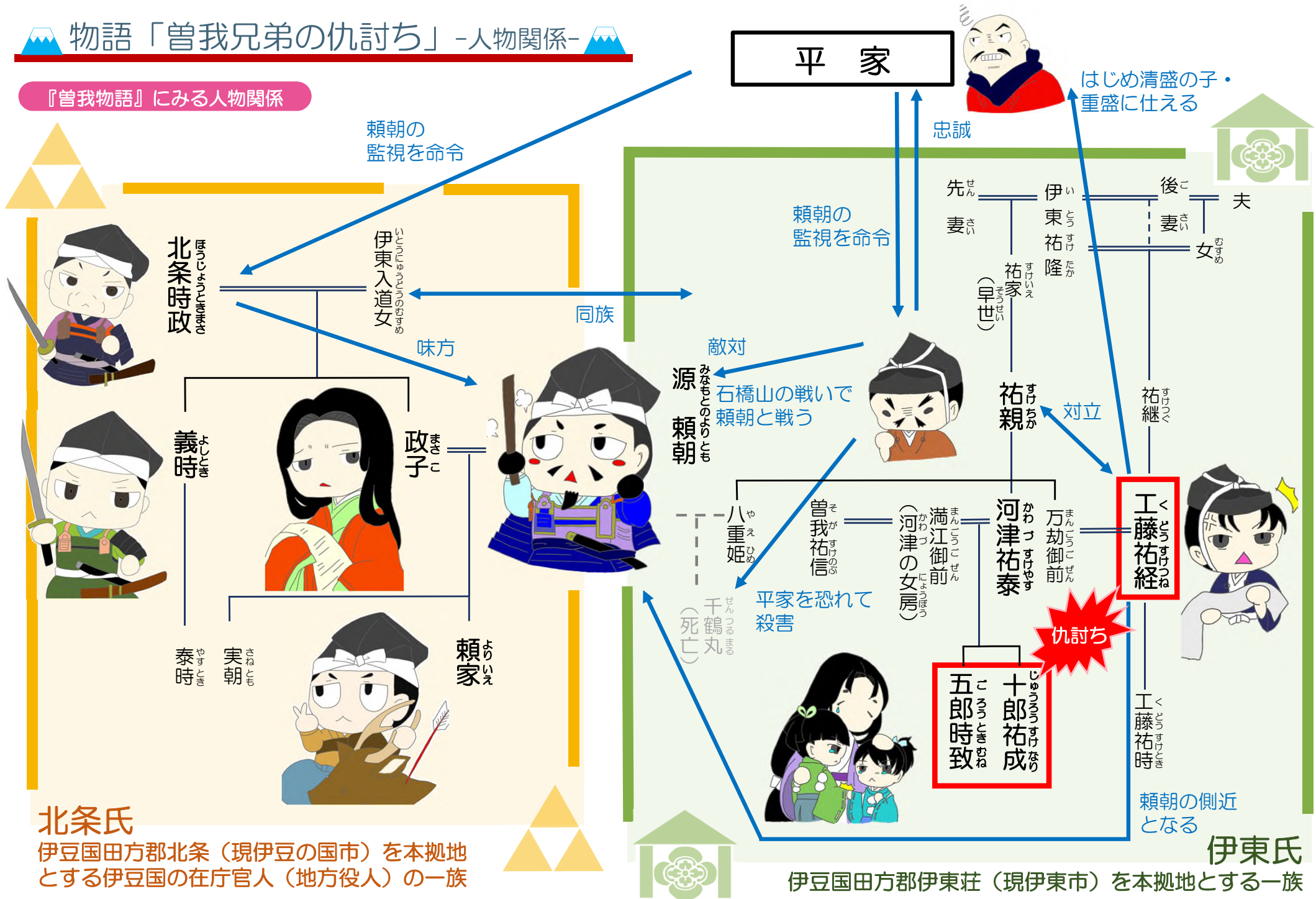


王藤内は吉備津神社(現岡山県岡山市)の神主です。

仇討ちの日は、領地返還を手伝ってくれた工藤祐経へお礼を伝えるため宿舎に立ち寄り、酒を飲んでいました。そして運悪く仇討ちに巻き込まれ、曾我五郎時致に殺害されました。

物語「曾我兄弟の仇討ち」-人物関係-

『曾我物語』にみる人物関係



物語「曾我兄弟の仇討ち」

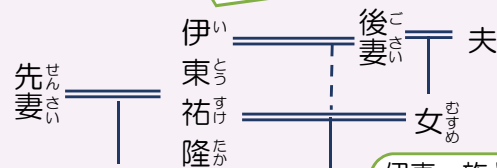
何故仇討ちが起こった？

私が跡継ぎになって伊東氏の本拠地・重要な領地を受け継ぐはずだったのに……まさか河津（現河津町）を譲られるなんて……！

祐継は死んだし、祐経は平重盛様に仕えさせるため都へ行かせたぞ！

祐経が都にいる間に、伊東氏の本拠地と重要な領地を奪い返してやる。

祐親が跡継ぎの予定だったけど……隠し子（祐継）を跡継ぎにしちゃえ



伊東一族とその本拠地・重要な領地を受け継ぐは私だ！

祐親、私が死んだら息子が成長するまで頼むよ

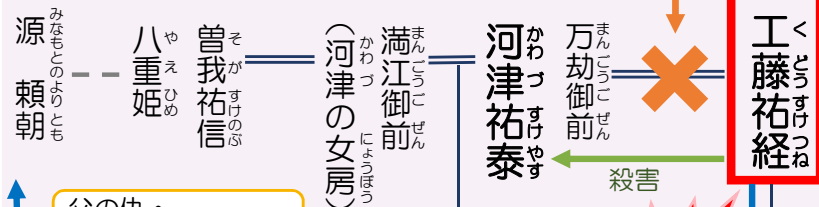
都にいる間に祐親に預けていた領地と妻を奪われたのは許せない。

敵対

殺害失敗

離婚させる

仇討ち



父の仇・工藤祐経討つべし！



五郎時致
十郎祐成

頼朝の側近となる

仇討ちとその結末

1193（建久4）年5月28日の深夜。仇討ちを終えた曾我兄弟は、彼らを討って手柄を立てようとする者たちに襲われます。

五月雨と暗闇で視界が悪い中、兄・祐成は仁田忠常に討ち取られます。一方、弟・時致は源頼朝の宿所に入り込みますが、女装した五郎丸にとらえられ、翌日処刑されてしまいました。



コラム

工藤祐経と曾我時致

『曾我物語』には、次のようにあります。
1187（文治3）年、頼朝が伊豆箱根権現社に参拝した際、時致は頼朝の従者の中に工藤祐経を見つけ、仇討ちをしようと付け狙います。それに対し祐経は時致の腰の刀を押さえつけ、自分が親族であり、今後兄弟のために力になると諭し、時致に「赤木柄の短刀」を授けます。祐経の心中はわかりませんが、時致の仇討ちの思いを挫こうとしたのかもしれない。
しかしこの行為は、かえって時致の仇討ちへの思いに火をつけてしまうことになるのです。



「曾我物語図巻」六（富士山かぐや姫ミュージアム（富士市）所蔵）▲



関連年表—その時富士宮では〇〇が！—



西暦	政治	富士宮市周辺の出来事
1180年	源頼朝、拳兵 8月 石橋山の戦い 10月 頼朝、鎌倉へ	9月 波志田山の戦い（富士山麓） 10月 鉢田の戦い（富士山麓） 富士川の戦い（富士川）
1185年	3月 壇ノ浦の戦い	11月 守護・地頭の設置
1186年		6月9日 頼朝、朝廷から浅間大社の年貢を早く納めるように命じられる 7月19日 頼朝、北条義時に命じて「福地社」（現富知神社）に神田を寄進
1189年		7月5日 頼朝、奥州藤原氏との戦いに備え、祈禱料として浅間大社の領地内にある寺院に田を寄進
1192年	3月 後白河法皇死去	7月 頼朝、征夷大將軍就任
1193年	3月~ 頼朝、各地で巻狩開催 5月 富士の巻狩（~6月） 8月 頼朝の弟・範頼、伊豆修善寺へ送られる	5月15日 頼朝、富士野の館に入る（狩宿） 5月27日 弓が得意な工藤景光が狩りで大鹿を逃し、弓を捨てる 5月28日 曾我兄弟の仇討ち（白糸・上井出）
1199年	頼朝、死去。源頼家、將軍に就任。13人の合議制スタート	
1203年	6月 頼家、富士の巻狩開催 9月 頼家、修善寺へ送られる 源実朝、將軍就任 北条時政、執権就任	6月3日 頼家、仁田忠常に人穴を探検させる 忠常、翌日穴から戻る（人穴）
1205年	閏7月 時政失脚、義時執権就任	
1212年		5月7日 北条朝時（義時の子）、スキャンダルで義時から絶縁され、富士・富士宮周辺へ送られる
1219年	1月 実朝、頼家の子・公暁に殺される	3月 北条泰時（義時の子）、駿河守として浅間大社に参詣（宮町）
1221年	5月 承久の乱 6月 六波羅探題設置 7月~ 承久の乱に関わった上皇が流罪になる	この頃、富士山頂に奉納する経筒（経を入れる物）が造られる（富士山）
1223年		6月20日 北条義時、浅間大社の建物をリニューアルする（宮町）
1224年	6月 義時死去、泰時執権就任	



書籍・HP紹介



もっと詳しく！書籍情報



富士宮市の歴史を知るならまずはコレ！

「歩く博物館ガイドブック 改訂版」



曾我物語と兄弟にまつわる史跡を紹介

「富士市の歴史文化探訪 曾我伝説」

問い合わせ先
富士市役所市民部文化振興課文化財担当
TEL：0545-55-2875
FAX：0545-53-0789

実際に歩いてみよう！



歩く博物館 Aコース



陣馬の滝や撫川・太鼓石など猪之頭地区の富士の巻狩に関わる場所を探索するコースです。



歩く博物館 Cコース



音止めの滝や曾我八幡宮など曾我兄弟の仇討ちに関わる場所を探索するコースです。

各トピックを掘り下げ！



富士の巻狩と曾我兄弟の仇討ち



「狩宿の下馬ザク」と井出家展



「富士講と人穴」展



白糸ノ滝

富士宮市郷土資料館 これまでの企画展

